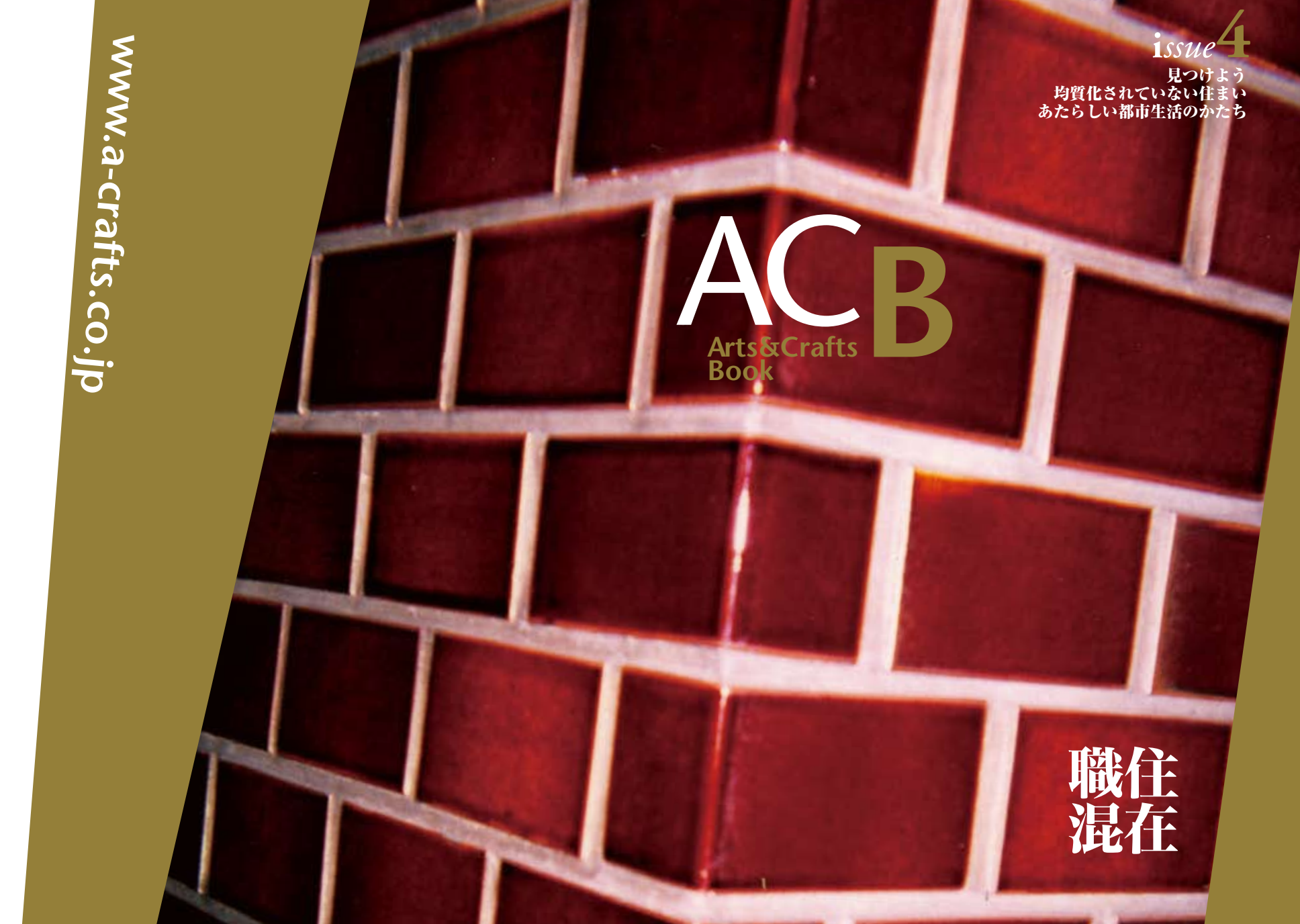


www.a-crafts.co.jp

ACB
Arts&Crafts
Book

issue 4

見つけよう
均質化されていない住まい
あたらしい都市生活のかたち

職住混在

ACB
Arts&Crafts Book

自分らしい住まいがほしい
ありきたりでない仕事場をつくりたい
そんなあなたにACB
発行 アートアンドクラフト

issue 4

index

家庭訪問｜大阪市福島区K邸
園芸用品の倉庫をリノベーション …… P1

ニッポンの「住」
新・雑居ビル宣言！　職住混在のススメ　文｜中谷ノボル …… P4

AC不動産
他にはない不動産あります …… P6

「街は骨折しない」
photo & column　文・写真｜辺口芳典 …… P8

建築物ウクレレ化保存計画
special　美術家｜伊達伸明 …… P10

まだがんばっています
リノベーション現場で生き残ったモノたち「サイン」 …… P12

表紙写真

今号の表紙は「陶器のように味のあるタイル」
古い建物のそれには、新しいものにない温度があります
年はけっして取るのではなく重ねてゆくものなんだ
改めてそう感じさせてくれました

アートアンドクラフトのお客さまのお住まいを紹介します

家庭訪問

大阪市福島区K邸
園芸用品の倉庫をリノベーション

家庭訪問

約９０畳（!!）という広さで間仕切りナシ。
のっぺりと広いだけに見えないのは床材のコントラストと段差をつけたゆえ。

大阪市福島区K邸

大阪市福島区 / 賃貸倉庫をリノベーション / 総床面積約 330㎡ / 本人と犬 / リノベーション工事約 1000 万円　物件の決め手は「広さと、使い込まれた味のある床」

アートアンドクラフト（以下 AC）：ここ、もとは園芸用品をつくる作業工場＋倉庫＋事務所＋従業員の休憩用和室みたいなすごい建物でしたよね、しかもボロボロ。

K さん（以下 K）：荒れ放題（笑）これじゃあ住めそうにないかな、と思ったりもしましたけど。とにかくシンプルで大きなハコを探していたのと、使い込んだ素材感が気に入ってほぼ即決でしたね。ゴツゴツした頑丈そうなものが好きなんですよ。
あとは「ハコさえあれば何とかなる！」で。

AC：私たちで物件紹介してて言うのも何ですが（笑）、広すぎませんか？

K：めちゃくちゃたくさんコレクションがあるんです。ひとつのものにハマると集めずにはいられないタチなので。そういうのをディスプレイして集合させ、全部まとめてひとつのデザインのようにしたかったので、これだけの空間が必要だったんです。家具もサイズを測らず衝動買いするんですが、何でも入る、何でも置けるっていうのがいいですね。
それと実家が昔ながらの一軒家で、障子を外せば大広間になる家だったので、仕切らない大空間には慣れてたんです。

AC：ここは１階を職場（デザイン事務所）、２階をご自身の住まいにしておられますが、「職場」と「住まい」の距離のとり方についてどうお考えですか？

K：職業柄、仕事している時間がすごく長いんです。前の家も気に入ってたんですが（注：以前の家もA＆Cでリノベーション）あまりに忙しくて寝に帰るだけになってしまって。でもプライベートの優先順位が低い訳ではなくって、仕事も遊びも一緒の感覚。だったら本当にくっつけたらいいかなって。帰るのが面倒とかないですし、すごくラクですよ。

AC：次の展開、どうしましょうかね。

K：今すぐどうこうの話ではないのですが、今の所も荷物があふれ（笑）何か今より広くていいのがあれば、夢は膨らむな〜と思い、いろいろ妄想を抱いています。

**AC：う〜ん、これより広いとなると体育館とか講堂とか…？また探しておきます！
ありがとうございました。**

仕事も遊びも一緒の感覚。だったら本当にくっつけたらいいかなって。

「これがあったから借りることに決めた」という
懐かしい学校の教室を思わせる雰囲気。木枠の窓、使い込まれた床。

「まだがんばってます」
以前からあった荷物昇降用リフト

もと倉庫ゆえ車も置ける

設計デザイン・工事監理
一森典子 / アートアンドクラフト

住みたいところに住みたいように住めばええねん！これを単なるワガママとして流してはいけない。自らのライフスタイルを認めたその先の考えであれば自分を表現する一つの手段であり、生き方そのものだと思います。こう書くと小難しく感じますが、実際は単純明快な話なのです。ほんまに。
『あらゆる場面を自分のスタイルで交わしていく』なんて素敵！　かっこいー！　シビレル！

コーディネート
植田香 / アートアンドクラフト

この建物は倉庫として賃貸募集していたのですが、前の道路があまり広くないため、大きなトラックが入りずらく、倉庫としては欠点の多い物件。でもちょっと視点を変えたらこんな「魅惑の変身」（わかりますか？）
日本中こんな「こうして使ったらええのに」という物件が埋もれていると思うと惜しい。もっと「転用布教」しなきゃ！

ニッポンの「住」

衣食住の衣と食では
世界のモードをリードする日本
でも、住の業界ではヘンな部分で
突出している気がします・・・

文｜中谷ノボル

004
新・雑居ビル宣言！ 職住混在のススメ

同じような建物が立ち並ぶ住宅街がタイクツだったので、住まいや事務所や店が適度に混在する都心に越してもう15年になる。どこの国でも、官庁街と大企業のオフィス街を除けば、住宅を始め事務所や店舗など様々な用途が入り交じって街ができあがっているのが都心部。日本もそうなのだが、ひとつの特徴がある。マンションなら住居だけ、事務所ビルなら入居するのは事務所だけと、ひとつの用途だけで建物ができあがっていることが多い。用途が入り混じらない方が管理の都合が良いし、住宅用と事務所用の入口や階段を複数設けなくていいので効率も良い。使い手としても、特に住まいとして利用する人々にとっては、不特定多数が出入りする建物が治安や騒音の面で嫌われるのだろう。

が、この「一建物一用途」のビルが増えたことが、ニッポンの街をつまらなくしていると思う。集合住宅、特に分譲マンションの通りに面した1階は、駐車場と自転車置場とゴミ置場で占拠され、この手のマンションが何棟か続く街なみは歩いて楽しくない。諸外国での都心スタンダードは、1階が店舗、中層階が事務所、上層階がアパートという構成のビルが建ち並ぶ。これはヨーロッパもアジアも同様。少なくとも表通りにマンションの駐車場やゴミ置場が連続することはなく、ショップやショウルームが続く。このように用途が重なる方が建物に活気があるし、景観上も断然いい。なんたって歩いて楽しい街なみだ。日本でも'70年代まではこういったビルが建てられることが多かったと思う。

一用途だけの建物を一部転用して、あとから複数の用途にすることも可能だ。昨年、スペインのバルセロナを旅した。泊まった宿は、二つのフロアだけを家族経営の安ホテル（オスタルという）に改修したもので、他のフロアは通常のアパートメントが占める。ここは以前なら治安が悪くホテル経営が成立たなかったが、近年観光化され旅行者が増えたのでオスタルに転用して営業を始めたらしい。時代の変化に応じて用途を転用し、建物を上手く使い続けているわけだが、この用途転用（コンバージョン）が日本ではなかなか難しい。詳しく話すと長くなるので省略するが、用途ごとに必要な窓の大きさや、避難の方法が細かく法で規定されており、特にオフィスから住宅へ転用するときのハードルが高い。結果、日本ではオフィス需要がなくなった地域でも、細々とオフィス経営され続けるなど、建物を時代の要請に応じて転用することが進まない。

そもそも、仕事場と住まいの区別はできるんだろうか？ 仕事のオンとオフを切り替え、時間を効率よく使っているコトを自慢する輩がいるが、自分はそんなに器用じゃない。休日に家で仕事することもあるし、逆に気分が乗らず事務所でだらだらと雑誌を読むこともある。この原稿も深夜に自宅で書いているが、別にそんな生活が嫌いじゃない。やる気のあるとき、アイデアが浮かぶときに働くに越したことはないと思っているし、その方が仕事の出来も良い。自分の他にも社内では、約半数のスタッフが在宅勤務やフレックス制を採用しているが、ご機嫌さんで受け入れている。

元来、農家では職住が混在していたし、都心部でもサラリーマンという言葉が使われるまでは、職と住はもっと近接していた。今や自宅で会社のメールをチェックする人は多い。これはもう知らず知らずのうちに、職住が混在しているんだと思う。確かに仕事はめんどうなものだが、イヤイヤしているのでなければ私生活に入り込んできてもストレスにはならない。オンとオフを明確にしたい人は、ホントは仕事が嫌いなんじゃないの？ マンションは住まいのみ。オフィスビルは職場のみ。そうやって建物を『純化』してきたのは、実はそういったオンオフ型の人たちのような気がする。

多民族国家シンガポールの雑居ビル

純化に対して『雑居』という概念がある。仕事場と住まいの混在。賃貸住宅とホテルの混在。一つの建物にいくつもの用途が混在している状態が雑居。そんな雑居している建物が近ごろ気になる。ライフスタイルが多様化し、それら用途の境界が曖昧な時代だ。ひとつの住宅の中でも仕事場と住まいが混在し始めているし、家具付きのサービスアパートなどホテルのような賃貸住宅も増えてきた。時代は再び「雑居ビル」を求め始めた？ 雑居という言葉を辞書で引いてみた。いわゆる雑居ビルという意味もあるが、最初に「一つの土地にいろいろの国の人が入り混じって住むこと」と書かれてあった。雑居とは多民族国家を意味する言葉だったのだ！ 島国日本が不慣れな他民族のモザイク状態。そしてミックスカルチャー。それでも近い将来、働き手を確保しようと移民を受け入れる議論が活発になるだろう。建物だけでなく、国自体が雑居に向かっている？ 雑居から生まれるあらたなニッポンの個性。ぜひ見てみたいと思う。国が閉塞している今だからこそ、「雑居」や「混在」が求められる。

中谷ノボル
1964年 大阪生まれ
建築家（アートアンドクラフト代表）
長屋再生からキャンピングカー暮らしまで、
自ら多様な住まい方を実践し続けている
自称「住まいの求道者」
趣味は世界の水辺を旅すること

AC不動産

AC 不動産は、アートアンドクラフトによる都心不動産のセレクトショップです
各物件の詳細は当社WEBにて
www.a-crafts.co.jp

一級建築士事務所　大阪府知事（イ）第 21250 号　宅地建物取引業者　大阪府知事（3）第 46315号

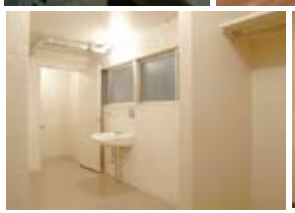
売買　職住が自然にまじりあう白いハコ

アートアンドクラフトの本「スマイ主義」にもご登場いただいた、すてきなリノベーション済住戸！
ざっくりしたコンクリートむき出しの箱を配管も見せっぱなしで真っ白にペイントしています。
ステンレスのおおきなキッチンを中心とした暮らし、ぜひご検討ください！

販売価格／ **1,680** 万円
所在／大阪市中央区南新町「都住創中大江」
交通／地下鉄谷町線・中央線「谷町４丁目」徒歩約４分
専有面積／56㎡（内法）
バルコニー面積／南北２面 9.12㎡
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造９階建て
所在階／４階
管理費・修繕維持積立金／ 21,940円
取引態様／仲介
備考／平成17年にアートアンドクラフトによる
　　全面リノベーション済です
　　ペット可

賃貸　寝泊りできるオフィスに空室でました！

都心のビルワンフロア６区画を、リノベーションしたプロジェクト。
アピトンという木目の粗いフローリングと、
コンクリートを真っ白にペイントした無骨で力強い素材感が特徴です。



賃料／ **111,300** 円
所在／大阪市中央区本町橋　トウセン本町橋ビル
交通／地下鉄堺筋線「堺筋本町」駅徒歩約５分
専有面積／ 65.01㎡
構造／鉄筋コンクリート造９階建て
共益費等／ 10,500 円
保証金／ 300,000 円
解約引き／ 150,000 円
取引態様／仲介
備考／３つ口コンロのキッチン・シャワーつき
　　寝泊りすることも可能です

賃貸　リノベ済ビル1階 街路樹が気持ちいい路面店舗

賃料／ **220,000**円
所在／大阪市中央区内平野町２丁目1-2 アイエスビル
交通／京阪電鉄「天満橋」駅徒歩５分
専有面積／約 40㎡
構造／鉄筋コンクリート造７階建て
共益費等／込み
保証金／ 2,200,000 円
解約引き／ 1,200,000 円
取引態様／仲介
備考／飲食歓迎

人通り多し！

掲載物件が成約済の場合はご容赦ください。成約の際は規定の仲介手数料が必要です。

「街は骨折しない」

「つくりもの。構造。再生。仮想的。現実。唯一。緊迫感。包容力。チクセキ。後づけ。土着的。組み合わせと分離。下世話と高尚の抜き差し。沈黙と騒々しさの混合物。無能で有意義な街の時間。私たちは街の一部分であり、街は私たちの断片である。私たちは街を選択しました。街は私たちを選択しました。同情もなく。感傷もなく。本日の気象状況は快晴。一人一人の街のカタチが、それぞれに"発育"している。私たちは"発育"を共有している。」

文・写真／辺口芳典

大阪生まれ。
２０００年ウェイストランド誌にて
文筆家としてデビュー。
２００６年キヤノン写真新世紀優秀賞受賞。
文筆業のほか、写真家としても活動。
生活の中にある言葉や街自体が
発散している違和感の面白さ、
質感の強さを
切り取って顕著に提示する。

Special

建築物ウクレレ化保存計画

できれば残したい建物をウクレレとして保存する
これまで数多くの建物をウクレレ化してきた
伊達伸明さんのプロジェクトをご紹介します

美術家
伊達伸明

[1] 春日丘高校ウクレレ

[2] 法善寺横丁えび家ウクレレ

[3] T邸ウクレレ

壊される建物をウクレレにする！？ 建築物ウクレレ化保存計画は、美術家の伊達伸明さんが2000年から始めたアートプロジェクトです。このプロジェクトを始める数年前、伊達さんが毎年帰省していたお父さんの実家が解体されることになりました。築 100 年程の木造住宅。解体を前に 500 枚以上の写真を撮りだめ、それを自家製の写真集として残したそうです。膨大な写真をあらためて見直すと、電気のスイッチ、扉の取っ手、便器に座ったときに見える壁など、細部の写真が思いのほか多いことに気付いたとのこと。その空間に居た者だけが知る“知覚”を写真として記録されたのでしょう。伊達さんは、「建物がなくなっても肌ざわりは今も残っている。その記憶がまた別の記憶を呼び起こす」と言います。元々、楽器や音の出る美術作品を制作していた伊達さんです。この実家の解体での体験と、これまでのさまざまな経験が入り交じって、写真や映像ではなく、ウクレレとして建物を保存しようと考えたということ。

いざ、建物がウクレレになるとき。そこには多くのストーリーがあります。写真 [1] は、2001 年に解体された「春日丘高校」がウクレレ化したもの。せっかく楽器にするならばと、音楽教室から材料が選ばれました。本体はセロテープの跡などが残る黒板。ヘッドは室名が書かれた木札。黒板にあった黄色い譜線が残されデザインされているのが印象的です。写真 [2] は、2002 年に中座の爆発事故で被害を受けた、法善寺横丁の料理屋「えび家」さんのウクレレ。主に活エビの水槽を材料として作られています。ヘッドの取っ手もかつて水槽に付いていた物。ウクレレを見るたびに、板さんの記憶が甦ることでしょう。実は、被災後の店舗をリノベーションしたのはアートアンドクラフト。私たちにも思い入れが深いウクレレです。写真 [3] は、解体されたT さん宅がウクレレになったもの。個人宅のウクレレ化が、人々に最も感動を与えるのではないでしょうか。本体に使われているのは、テレビの横にあった柱。シールや落書きでいっぱいです。テレビを見ていた時間、ずっと視覚の隅にあったであろうこの柱。家族の記憶が凝縮されているように思います。

できるならば残ってほしいと思う建物が壊されてゆくとき、更地になった土地を前に、人々はそこにあった建物の記憶を引き戻そうとします。写真や映像が残っていれば、記憶をとどめておく助けになることでしょう。近ごろは古いビルを建替える際、あらたな建物に外壁の一部が保存されることもあります。「消えゆく建物の何をどのように記録し、残すべきなのか？」これは壊される建物だけでなく、建物をリノベーションする際にも考える大きなテーマです。伊達さんは、建物の記憶をウクレレの素材として象徴的に切り取り、小さなウクレレへと凝縮してゆきます。実際にウクレレ化するには、高い技術が求められることでしょう。しかしそれ以上に、この『素材選び』こそがプロジェクトの真髄なのだと感じました。「建物がウクレレになる！？」それを聞いたときに感じる“ 軽さ ”に同居する“ 奥深さ ”。でも、ウクレレ化を希望する家族には、けっして難しく考えることなく依頼することをお薦めしたい！ 伊達さんに会えば、きっとそれが分かるはず。（編集部）

もっと詳しく知りたい人は この本をチェック！

建築物ウクレレ化保存計画 2000.4 ～ 2004.3
著者◎伊達伸明
テキスト◎ゴンザレス三上　チチ松村（GONTITI）
出版社◎青幻舎
価格◎ 1,500 円+税
お求めは、アートスペース虹（電話 075-761-9238）まで

こちらもチェック！

伊達伸明個展（建築物ウクレレ化保存計画・公開展示）
２００９年3月31日～4月12日
アートスペース虹（京都市東山区三条通神宮道東入ル）

建物をウクレレ化したい人は伊達さんまで！

伊達伸明
1964年　兵庫県生まれ
1991年　京都市立芸術大学大学院研究科工芸専攻修了
2000年　建築物ウクレレ化保存計画を始める

ウクレレ化の問合せ
FAX:06-6849+2802
建築物ウクレレ化保存計画／伊達あて
費用◎ 20 万円（切り出し／制作／諸経費込み）

まだがんばってます

建物の内部を解体して再生するリノベーション
その現場で生き残ったモノたちが語ります

【４Ｆ】でございます。ちょっと憤慨しておりますの、話を聞いてくださいな。
先日、「激論☆まだがんばってます」というトークショーにお誘いいただいて、光栄だと思って参加しましたの。わたくしも所々欠けたり塗りなおしたりしながら、かれこれ４０年以上静かに働いてまいりました。最初はＦという表示がモダンでそれはそれは自慢だったことなぞをご披露しようと思いまして。弟の【maneger office】も誘ったのですが、いまマネージャーもいないし、綴りが間違ってるから恥ずかしいよ、と辞退しまして、わたくしだけで。
そうしましたら、他の参加者たちがひどいんですの。
今やカタログ置き場の【応接室】とロッカールームになっている【会長室】が、昔どんなに隆盛を誇ったかのくどい自慢話が延々と続きますし、【109】はもう108も110もないのにまだ厚かましく居座っているそうなんですよ。わたくしさすがに「今はがんばっておられませんよね？」とチクリと言ってみたのですが、全くこたえてないんです。【受信所】なんかもいつまで居るつもりなんだか。
え、わたくし？がんばっているも何も、立派に現役じゃないですか。4Fが4Fでなくなる時なんてこの建物がある限り参りませんもの。【便器内に】とはその話で盛り上がって親しくなったんですよ。変わらない事実を表しているって誇りです。（談）

文字は体を現すという通り、時を経て残るビルにはその時代を色濃く反映させたサインが随所に残っている。現在のようにカッティングシートやプラスティック板を貼り付けるスタイルが主流になるまでは、看板屋の書き文字職人がガラス面や壁に直接ペンキで描くやり方であった。ゆえに用途の変更があっても簡単に消すことは難しく、大きな不都合がなければそのまま使われつづけているケースも少なくない。
また、【腰掛便器の使い方】シールに見られるように、今や全国民が認知しているであろう事項の図解などは改めてみると興味深い。

ACB
Arts&Crafts
Book

issue 4

後記

第４号は職場と住まいの混在をテーマとしました。今やどこでもにいても仕事の電話が携帯にかかってくるし、メールも受け取れてしまう。分けたくても分けれないのが仕事と住まい。自営業だけでなくお勤めの人もそうなんです。どうせなら前向きがいいですもんね。24時間、遊びも仕事も。

発行日／2009年1月20日
発行人／中谷ノボル Arts & Crafts
編集／植田香・岡崎麗
表紙写真／辺口芳典
P1-P2　写真／市川かおり・大坊崇
デザイン／河村岳志　alt.design associates

制作・発行／
Arts&Crafts
株式会社アート アンド クラフト
大阪市北区中之島 3-6-32　ダイビル1階
TEL.06-6443-1350
営業時間 10:00〜18:00 水日祝休

一級建築士事務所 大阪府知事（イ）第21250号
建設業免許 大阪府知事（般-18）第116939号
宅地建物取引業者 大阪府知事（3）第46315号
大阪市まちづくりコンサルタント登録

大大阪
www.dai-osaka.com

4/11sat. 閉店

中之島にある名建築「ダイビル」(1925年築)
その1階でアートアンドクラフトが運営する小さな喫茶店です。
大阪に関する蔵書をご覧いただき、セレクトした大阪名品が買える店。
ビルの解体までの期間限定営業ですがとうとう閉店することに決まりました。
最後にもう一度、珈琲を飲みながらダイビルを記憶にとどめてください。

大阪名品喫茶 大大阪
大阪市北区中之島3-6-32
ダイビル本館1F

open 9:30〜18:00 日曜祝休
tel:06-6444-8870
web:www.dai-osaka.com

アートアンドクラフトとは？
1994年から大阪を中心に活動している、不動産・設計・施工・コンサルティングの会社です。最大公約数向けにつくられた可もなく不可もない住まいより、均質化されていない 自分に合った心地よい住まいがほしい。そういったひとつひとつの思いが形になるよう、さまざまな選択肢を提案し続けています。

詳しくはホームページをご覧ください
www.a-crafts.co.jp